

早稲田ウォーキングサークルにおける「1人がもう1人キャンペーン」の企画・実施
Of "one another one campaign" in Waseda walking circle a plan / enforcement

1K03B805-7 山本 絵美

指導教員 主査 中村 好男先生 副査 間野 義之先生

1. 緒言

ウォーキングには生活習慣病の防止やストレス解消などの効果があり、少ない費用で誰でも気軽に行えるという特徴がある。このようなウォーキングは 40 歳代以上の人々に特に人気があり、様々な大会やサークルなどを通して全国で実施されている。その 1 つに、1999 年 10 月に活動を開始した、早稲田大学所沢キャンパスを活動拠点とする「早稲田ウォーキングサークル」がある。会員 115 名で活動を始めるも、やがて会員数が減少してきた。そこで、会員数を増やすために「航空公園クラブ」が 2005 年 6 月に発足した。そして、2006 年 4 月には会員増を目的に既存会員のロコミを利用した「1人がもう1人キャンペーン」を実施した。本研究の目的は、ウォーキングサークルの会員を増加させるためのプロモーション活動として実施した「1人がもう1人キャンペーン」の企画から実施までの過程を明らかにし、その結果を考察することである。

2. 早稲田ウォーキングサークル

1998 年秋、埼玉県所沢市小手指・三ヶ島地区を対象にウォーキング効果を測定する「健康モニター」の募集を行った。このプログラムは「研究」の一環として行われたが、参加希望者が多数いたことから翌 1999 年春にも行うことになった。1999 年 10 月にはウォーキング教室の参加者が継続的にウォーキングを楽しめるようにと毎週土曜日に活動する「ウォーキングサークル」を立ち上げ、2000 年 7 月には自主的サークルから所沢西地区総合型地域スポーツクラブ（通称：WASEDA CLUB 2000）の正式活動となった。2000 年 7 月には会員数が 400 名を超えることもあったが、2005 年には減ってきた。そこで 2005 年 6 月 23 日に会員数や活動機会の増加を目的とした「航空公園クラブ」を立ち上げた。

3. 「1人がもう1人キャンペーン」

中村研究室の 3 年生（当時）が 2005 年 5 月 6 日（土）に行う、早稲田ウォーキングサークルの会員数増加のためのプログラムを考案することになり、話し合いの結果「1人がもう1人キャンペーン」を行うことにした。その内容は、既存会員に家族や友人を勧誘してもらい、入会すれば新規入会者と既存会員にサークルオリジナルタオルを贈

呈するというものである。当日は目標人数 80 人に対し男性 5 人、女性 13 人の計 18 名が入会した。平均年齢は男性 64.6 歳、女性 61.4 歳、全体では 62.3 歳であった。紹介者数は延べ男性 6 人、女性 12 人の計 18 名であった。

4. 考察

今回のキャンペーンの「延べ紹介者数」は男性 6 人、女性 12 人の計 18 名であったが、実際には 3 名の紹介者が 2～3 人ずつといったように複数人を勧誘してくれた。なぜ 3 名の紹介者は複数人を勧誘してくれたのかを考えた結果、そのような人々は「サークルとの関係が深いのでは」という仮説に至り、サークルの補助員の方に聞き込みを行うと、紹介者のほとんどがサークル運営に深く関わっていることがわかった。よって今回のキャンペーンでは、このようなサークル運営に積極的に関わろうとする「オピニオンリーダー」の存在が重要であったことがわかる。

次に、今回のキャンペーンでの新規入会者の目標人数は 80 人であったが、実際に入会した人は 18 名であった。この結果から考えられるのは「オピニオンリーダー」以外の会員は、自分たちが健康になるためや楽しむためにサークル活動を行っており、新しく自分たちの仲間を増やすことにそれ程関心がないのではないかということである。

また、新規入会者の平均年齢を見ると 60 歳代の方が多いことがわかる。この結果から考えられることは、チラシを渡した既存会員が自分たちと同じような年代の人々を勧誘したということと、子どもたちなど自分たちと年代の異なる家族を勧誘することが少なかった、または勧誘したがウォーキングに興味が無いなどの理由で年代の異なる家族が入会しなかったのではないかと、ということである。

今回のキャンペーンの反省点、改善案としては、告知期間をより長くすることや、WASEDA CLUB 2000 の他のサークルにも告知を行うことが挙げられる。また、より人を集めるためには、自分自身の健康のためだけでなく、自分たちが中心となりその輪を周りの人々に広げていくのだという意識付けを日頃のサークル活動から行うことも必要ではないかと思う。